



管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問～2回目を振り返って～

第2回目のAP訪問は、予定通り11月中に終了しました。校長先生をはじめ教職員の皆様には、APの説明・協議、授業参観と大変お世話になりました。授業改善の風土が校内研修、OJTを通じて広がっていることや教務主任や学力担当者等の学校リーダーが大きく成長してきていることを感じる事ができた訪問でもありました。訪問を通じての「津事管内の学校の**成果と今後**」という視点で記述させていただきます。

成果



自校の取組状況は
いかがでしょうか？

・明確な**学校ビジョン**のもと**目的意識**をもって実践し、自分たちの取組を振り返り、成果と課題を**言語化・共有化**して、次につなげようとする学校は前進しています。

・**APの重点取組**と**校内研修**を揃えるなど、**連動**した取組となっているところは、先生方の理解もあり、組織的な取組となっています。

・AP訪問をうまく活用して、さらにサイクルを回そうと**意図的**に計画されている学校は、授業改善への教員の意識が向上し、授業力の向上につながっています。

・**中堅クラスの主任やリーダー**が実によく育っている学校が増えています。特に、30代が責任感を持って堂々と受け答えをし、取組推進の苦勞や充実感を説明している姿には将来に向けた期待感をもつことができます。

・日常的に職員室等で学校の取組や児童生徒の様子について**話しやすい風土**を管理職や中堅教職員が意識的につくっている学校は取組が進んでいます。

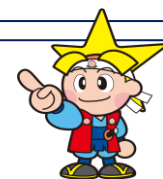
・取組の**エビデンス**として、数値的なものやアンケート、エピソードを根拠として示す学校が増えています。

・**目的**を教員に加え**児童・生徒と共有**することで、大人と子どもの両輪でAPを進める学校が出てきています。

・**単元等のまとまりを見通した計画**を立てる学校が出てきました。今までも、単元計画を示す学校はありましたが、**児童・生徒が活用する場面**が見られ始めています。

・日々児童生徒に向き合い、粘り強く生徒指導を行いながら、教職員が**一体感**をもち、**学びを止めず**、授業改善に取り組んでいる学校があります。

今後



▲教職員の共有が図られ研究が進んでいる学校とそうでない学校の差が開いています。

⇒**校長の方針**の不明確さや職員の**納得感**や**必要感**を生み出すことができていないことが要因の一つとなっていると考えられます。

▲学校としての抽象的な取組の方向性は示されているものの、具体的な取組については担任（各個人）に委ねられており、組織的な取組になっていない学校も見られました。

⇒**具体の実践を共有する場**を設定し、自校の方向性のどこなのか**意味づけ**していくとよいでしょう。

▲手段が目的化している取組があります。

⇒「何のための取組か」「その取組によって児童・生徒の姿がどのように変わったのか」などを**目的・意義**や**子どもの姿から分析**していくことを大切にしましょう。

⇒重点取組の指標が本当にそれでよいのかと、**問い続ける**必要があります。

⇒マナー化や困難な状況を打破していくためには、**主体的に**新たな情報を得たり外部からの指導助言を**積極的に**受けたりするなどして、改善のきっかけをつかみましょう。学校で抱え込まないことが大切です。

校長が考える学校経営の「一歩先」を実現する



R7年度 第4号②
津山教育事務所 12月

R7.2.4総合的マネジメント力発展
研修講座「学校経営アクション
プランを活用した学校づくり」
資料より一部抜粋

APを効果的に機能させるために

1 学校ビジョンと校長の熱意

- ・校長としての資質を磨き続ける
- ・教職員との関係性が大切 実際に動くのは教職員



学校ビジョンでわくわくさせる

★チームを動かす北極星を見つけよう

・コアバリュー ・パーパス ・ミッション

「校長が言うのなら」と思わせる人間性・専門性を磨く

管理職も**学び続ける**

2 今年度の成果と課題【現状分析】⇒次年度の【重点目標】を設定

- ・職員全体で現状を分析し、成果と課題を共有することが**極めて重要**

【言語化・共有化】

事前に学校評価や独自調査で課題を抽出

本質は何か 見取り・分析

3 担当者を決める～必要ならば組織改編も～

- ・それぞれの【重点取組】を誰に担当させるかを決める
- ・ミドルリーダーや若手に【重点取組】について任せ、責任をもって取り組ませる ⇒ **人材育成**
- ・組織の改編（新設）が必要な場合は、年度末には次年度の素案を練っておく

バクトル合わせ スケジュール

どこで いつ 何を 何のために

任せて伸ばす 支えて守る 両面

4 途中検証・軌道修正

- ・【重点取組】の検証は年度後半の1回では不十分
- ・途中で取組の軌道修正や加速を図る意味でも年2回の検証が効果的

短いサイクルでPDCAサイクルを回す